



ICT 海外ボランティア会会報

No. 27 (旧、NTTOBSV 会会報)

2011年9月30日(金)

Home page : <http://www.ictov.jp/>

e-mail : sv@info.nttob.org

目次

- ◆ 特別寄稿
知識よりも実行力を (真藤語録からその2)
本会顧問 石井 孝 氏
- ◆ JICAシニア海外ボランティア平成23年度秋募集
事務局
- ◆ 特別寄稿
変貌するアフリカ
田上インターナショナル代表 田上 智 氏
- ◆ 会員リレー寄稿 (第11回)
海外製品発掘と製品化の思い出
株式会社東電通ICT東日本事業部 安達 信男 氏
- ◆ 石井誠一氏壮行会開催
事務局
- ◆ 東日本震災活動体験 (第2回)
東北災害ボランティア活動から感じたこと
本会幹事 山下 満男 氏
- ◆ JICA「メールマガジン配信登録」のおすすめ
事務局

特別寄稿

知識よりも実行力を (真藤語録からその2)

本会顧問 石井 孝

【元NTT社長 真藤 恒氏の語録】

技術というものは、頭の中で考えただけのものが技術ではない。そういうものを現実に作る
るとか、運転するとか、現実に即して、毎日の仕事はその線で動いていないと技術というも

のは成り立たない。

いわゆる観念的に一つの本なら本に書いて、それを一つの技術だというのは大間違いである。技術というものは、あくまでも具体的なものに作る方法なのだから、具体的にものを作っていかなければ技術は伸びない。

技術が伸びるからものが作りやすくなり、競争力がつき、ますます技術は伸びていくという相互関係でアクセラレートしていく。ただ実際にもものを作りながら技術が自然に進んでいくというだけでなく、その過程で極端に言えば、従来の習慣的なものを一応否定してかかって、その結果を見てまたそれを否定してやってみる。つまりステップ・ステップの一步でも半歩でも前進的な、前と違ったやり方に変えていくということが大切である。

それが実行されてはじめて経済的にも社会的にも意味を持ってくるわけであるから、知識としてわかっているも空である。いわゆる陽明学でいうところの知即行、行即知である。知と行、行と知というものはなれては役に立たない。

指導者としては、知識だけでなく、知識を利用する人間としての高いポテンシャルがあり、人柄がリファインされていなければならない。

【石井 孝氏のコメント】

ソフト開発に手を染め、半年ほど経ってから米国 IBM 社の見学ツアーに参加する機会を得た。ポケプシーのラボであったと思うが、メインフレーム OS の開発拠点である。ほぼ1日、いろいろ話を聞いたが、正直のところ、さっぱり分らない、とにかく大変なレベルであることは理解できた。マラソンでいえば、背中が見えない所ではなく、何処を走っているかが分らない感じである。些かソフト開発を甘く見ていたことを思いしらされた。

帰国してから仲間達に状況を報告し、追いつくことは出来なくとも、何とか、これから三年ぐらいのうちに、何処を走っているかぐらいは、見える所までに、もって行こうと話合った。

そのためには、同じ道を辿ったのでは、相手も走っているのであるから、何時までたっても、差は詰まらない、ある程度の危険は覚悟でロッククライミングのような、ショートカットもやらなければならない。また、無茶も覚悟であるから、品質のよくないものが出来てしまうかもしれない。その時は、ユーザーに悟られる前に手当てをしてしまうような手立ても考えておく必要もある。

そんな思いで知恵を絞った結果出来上がった仕掛けが、ワークステーションを駆使した開発環境であり、リモート集中メンテナンスシステムであった。

十分な知識から知恵に昇華したというよりは、火事場の馬鹿力（知恵）といった方が似合っているかもしれない。

行動し、実行しなければ知恵は決して生まれないことは確かである。そして、知恵から生まれた技術は生き物になり、手塩にかけ続ける限りどんどん成長して行く。

ただ、ここで難しいことは、ある程度の所で見きりをつけ、さらに新しいものに挑戦する時の決断である。

IBM がメインフレームからクラサバへの切り換えの決断がそうであったらうし、我々の場合は、ワークステーションから、PC&サーバへの切り換えの時は、未練というか、卒業式で

「蛍の光」を唄う心境であった。

真藤さんの言わんとしたことは、じっとして居ないで、とにかく前進しろ、山があったら登れ、足跡で踏み固められた道ばかりをゆくな、障壁にぶつかったら知恵を出して乗り越えろ、と叱咤したものと思っている。

SV秋募集

JICAシニア海外ボランティア平成23年度秋募集

事務局

シニア海外ボランティア平成23年度秋募集は10月1日(土)より11月7日(月)までに行われます。その要請案件の内、当会会員が応募し易いと思われる案件を次表に掲げます。参考にしていただければ幸いです。またこれに伴う JICA 主催の募集説明会の内、東京・神奈川・埼玉関連のスケジュールを掲載します。有意義な説明会です。是非ご参加ください。

なお、今回は日経社会シニア・ボランティア募集も同時に行われます。

要請案件

電気通信・情報通信・情報処理等

指導科目	派遣国	内 容
システム運用管理	カンボジア	公共企業体リサーチセンターで、システム構築・運用・管理の人材育成
地理情報システム	フィジー	国家災害管理局で、データベース化と GIS 構築
コンピュータ技術	マーシャル	マーシャル諸島通信局で、仮想コンピュータシステムの実現・管理・運営
コンピュータ技術	パプアニューギニア	最高裁判所で、コンピュータ設備の維持管理
コンピュータ修理	チュニジア	職業訓練校で、PC 修理技術・マイクロプロセッサ利用技術の指導助言
プログラミング	キルギス	民族大学で、学生を対象にオブジェクト指向プログラミング講座担当
電気電子工学	ケニア	電気技術大学で、電子工学・電気通信工学の理論と実習指導
電気電子機器	パプアニューギニア	電気技術大学で、より実践に役立つ電気科コース運営
電気	ドミニカ共和国	職業技術訓練庁事務所で、PLC 実習機材の設計製作支援

メカトロニクス

指導科目	派遣国	内 容
メカトロニクス(タマリバス)	メキシコ	工業高校で、メカトロニクスオートメーションシステムの操作、管理の能力強化
メカトロニクス(ケタロ)	メキシコ	工業高校で、教員の知識・強化のための研修、カリキュラム再検討
工業電子装置	メキシコ	工業高校で、電子メカトロニクス・自動化で、教員能力強化、カリキュラム検討
メカトロニクス	エジプト	訓練センターで、メカトロニクス研修カリキュラム見直し、教材作成、スタッフ能力向上

品質管理

指導科目	派遣国	内 容
品質管理	リ	鉱業訓練センターで、中小企業に対し品質管理改善活動の支援

生産性向上	ペルー	技術改新センターで、ワイン醸造企業に 5S・カイゼン導入・定着
品質管理	ラオス	中小企業振興開発事務所で、5S・ISO9001 等品質管理システム普及
品質保証・管理	ベトナム・ハノイ	中小企業支援センターで、品質保障・管理の改善計画立案・実行支援
品質保証・管理	ベトナム・ホーチミン1	商工会議所で、中小企業品質保障・管理の改善計画立案・実行支援
品質保証・管理	ベトナム・ホーチミン2	商工会議所で、中小企業品質保障・管理の改善計画立案・実行支援
生産管理	メキシコ・シティ	工業高校で、5S 導入評価・継続のため、5S・カイゼン導入のセミナー開催
生産管理	メキシコ・セラー	工業高校で、5S 導入評価・継続のため、5S・カイゼン導入のセミナー開催
生産管理	メキシコ・ピクテリア	工業高校で、5S 導入評価・継続のため、5S・カイゼン導入のセミナー開催
生産管理	メキシコ・ケレタロ	工業高校で、5S 導入評価・継続のため、5S・カイゼン導入のセミナー開催
品質管理・競争力強化	アルゼンチン	工業技術院で、セミナー・OJT で指導員の育成、TPM・TQM の指導
生産管理普及体制	アルゼンチン	州で、食品・木材・金属加工技術管理、生産管理等の人材育成
TQM 推進	ヨルダン	大学工学部で、国内産業発展をサポートするプロジェクト活動支援

渉外促進

指導科目	派遣国	内容
渉外促進	コロンビア	市役所で、環境保全の経験ある SV グループ 派遣支援
渉外促進	エクアドル	県庁で、SV グループ 派遣支援
渉外促進	ウルグアイ	環境局で、弱者支援 SV グループ 派遣支援

JICA 募集説明会

JICA シニア海外・日系社会シニア ボランティアの秋募集説明会が、東京・神奈川・埼玉地域では 9 月 25 日（日）より 10 月 28 日（金）の間に行われております。日程と場所は次の通りです。他県および詳細については、JICA ホームページをご覧ください。

東京 23 区	10 月 1 日（土）	10:30-12:30	JICA 地球ひろば（広尾）
	10 月 5 日（水）	18:30-20:30	東京ウイメンズプラザ（渋谷）
	10 月 16 日（日）	10:30-12:30	JICA 東京（幡ヶ谷）
	10 月 22 日（土）	10:30-12:30	JICA 地球ひろば（広尾）
東京都下	10 月 6 日（木）	19:00-21:00	八王子市生涯学習センター クリエイトホール（八王子）
	10 月 19 日（水）	15:30-17:30	武蔵野公会堂（吉祥寺）
神奈川県	9 月 25 日（日）	10:30-12:30	JICA 横浜（桜木町）
	10 月 16 日（日）	10:30-12:30	JICA 横浜（桜木町）
	10 月 19 日（水）	15:00-17:00	グリーンホール相模大野（相模大野）
埼玉県	10 月 10 日（月祝）	10:30-12:30	大宮ソニックシティホール（大宮）
	10 月 28 日（金）	15:30-17:30	大宮ソニックシティホール（大宮）

SV 経験を活かす会 なんでも相談会

JICA シニア海外ボランティアの秋募集説明会に呼応して、経験を活かす会では恒例の「な

んでも相談会」を開催します。(共催：JICA, 協賛：JOCA)

開催は10月1日(土)より10月30日(日)までの、毎週「金」「土」「日」に、JICA地球ひろば(会議室5A・5階)及びJICA横浜(3階)の両会場で同時並行して行われます。

土・日曜は13時より16時まで、金曜は17時より20時までです。

対応者は経験豊富な会員ですが、詳細については、SV経験を活かす会ホームページをご覧ください。(http://jicasvob.com/)

特別寄稿

変貌するアフリカ

—2人の独裁者・カダフィとジェリー・ローリングス—

田上インターナショナル代表 田上 智

ガーナのリビア大使館には壁一面に「カダフィ」「カダフィ」「カダフィ」とこれでもかこれでもか、というほど大佐の肖像がべたべた貼ってあった。私がガーナに滞在した1985年当時、共に中尉(報道では大尉であるが断じて中尉である)でクーデターを起こしたリビアのカダフィとガーナのローリングス、アフリカの将来を担うと思われた2つの星はアメリカを共に最大の敵とみなしていた。共通の敵を持つその2つの国は実に仲が良かった。ほぼ倒産状態にあったガーナ郵電公社再建の命を受けた最高財務責任者の私が最も力を入れたのは電話料金の回収という実に地味で骨の折れる仕事である。日本のNTTでは考えられないが、収納率は実に25%という低さであった。低収納率の元凶の一つは、ガーナと仲の良かったリビア、キューバ、東ドイツの各国大使館の国内・国際電話料金滞納である。共通点はすぐに分かった。アメリカ嫌いの国々でお互いの債務も取り立てなかったのである。そこに何のしがらみのない日本人の私が純粋に「経営的観点」から借金取りとなって乗り込んだというわけである。

リビアと東ドイツはしぶしぶ支払いを始めたが、キューバ大使館からはクレームが運輸通信大臣にその日のうちに来て、即刻、私は大臣室に呼ばれた。「あなたは、キューバとガーナの政治的友好関係を知っているのか？」私はその質問には沈黙を守り静かにその場を引き上げた。観念したキューバ大使館もその後「分割払い」で返済を始めた。

「砂漠の狂犬」と言われたカダフィと「アフリカの暴れん坊」ローリングス、出発点は汚職・不正を現政権から追放するという青年将校の潔癖な熱意から出ているのだが、その結末はかくも異なっている。そこには、個人の資質もあるが、その地政学的差異も深く影響している。まずは、カダフィの軌跡から追ってみよう。

1942年リビアの砂漠地帯に住む遊牧民ベドウィンの一部族に生まれる。1963年ベンガジの陸軍士官学校に進む。専門は通信。1969年トリポリでクーデターを起こし、国王イドリース1世を国外追放。「革命評議会」を設置その議長となる。以後実質上の元首としてリビアを指導してきた。イスラムに傾倒し汎アラブ主義を貫きアメリカと対立した。ア

アメリカの空爆や経済制裁のあとアメリカとの関係はむしろ友好的となっていたが、議会も憲法も無いかなり異質な国家である。

ジェリー・ローリングスは1947年アクラにイギリス軍人と現地女性との間に生まれる。1979年空軍中尉の時、クーデターでアクフォ軍事政権を倒し軍事革命評議会議長に就任。すぐに民政移管を行ったが、リマン政権を再びクーデターで倒し以後は自ら長期軍事政権を築いた。当初社会主義を志向し反アメリカの態度をとっていたが、1983年以降構造調整を実施し次第にアメリカとも友好関係を築くようになった。内政では、1992年、民主化を実施、複数政党を導入、大統領選挙で初代第四共和政大統領に就任、2期大統領を務めたが、3選禁止規定により2000年の大統領選には出馬しなかった。2代政党制と政権交代も行われた。西アフリカにおける数少ない議会制民主主義国となっている。ローリングスについては、実際にこの目で見たことがある。1986年、日本の援助で北部の電話網が整備されタマレで記念式典が行われた。ガーナP&T（郵便電気通信公社）の幹部としてガーナで唯一のプロペラ軍用旅客機で記念式典に臨んだ。その軍用機は元空挺部隊用で落下傘で空軍兵士が降りられるように機内が装備してあった。着地タマレの飛行場といっても雑草の生い茂るただの草原。何度も何度も旋回、後で聞けば軍人パイロットはその飛行場は初めての着陸であった。隣席の交換機メーカーの日本人部長は顔が真っ青、「これで自分の人生も終わりかと観念した」そうだ。窓から下をのぞくと、警官と看護婦が着陸失敗で機体が炎上した時のことを想定して消火器をもって不安そうな顔をして何度も旋回するが一向に降りてこない機体を見上げている。ようやく着陸。式典が始まるまで、あとから大統領専用ジェット旅客機で来るローリングスを待った。本人がタラップを降りると、迷彩服にサングラス、長靴といういつものスタイルで我々観衆にも手を挙げていたが、大柄で筋骨たくましい混血のその男は2度のクーデターを乗り越えたものだけが持つ独特の“殺気”というものを持っていた。本人が手を挙げたとき自然とこちらも手を挙げて「ウオー」と叫んでしまっていた。いったいあれはどういう種類の衝動だったのか？

ローリングスはいまだに本国で存命、かつての殺気は失われ、映像で見るとでっぴり太った好々爺の風貌さえあり、元大統領は質素な悠々自適の生活だそうだが、慕う人の自宅訪問が絶えないという。かたやカダフィとは対照的な余生である。一族を政権の中枢に送り込んだり、利権の恩恵を与えたり、対外資産をため込んだり、途上国の独裁者が陥る典型的な人間的弱点、「ネポティズム（依怙鬻賈）」や「私腹を肥やす」ということが全くない。一方のカダフィはどうだろうか？長男ムハンマドはリビアオリンピック委員会委員長、現在はアルジェリアに逃亡。二男サイフ・アル＝イスラームは実質テレビ局を牛耳る。リビア南部のサブハに逃亡。三男アッサー・アディーは元サッカー選手でリビアサッカー協会会長。リビア国内に潜伏。四男ピッラーフは軍人で国家安全保障顧問。行く先不明。五、六男は省略。七男ハミースは軍人で最も重要とされる第32特殊部隊の司令官。NATO空爆で死亡。長女のアイシャは弁護士で国連開発計画の元親善大使。アルジェリアに逃亡。本人の実力の程はいざしらず、“親の御威光”が十分うかがえる。その御威光もいまや無きに等しく死亡や逃亡あるいは潜伏中の身の上である。典型的なネポティズムの光と影である。次に私腹も桁違いだ。一説にはカダフィの対外資産は1700億ドル（13兆円）にも達するという。もとはといえば、不正や汚職を正すはずのクーデターではなかったか。「金のなる木」であり

埋蔵量が世界8位である石油の産出国であるという背景もある。

JICA研究所上席研究員・竹内進一氏は、「アフリカの現在と未来」という新聞記事のなかでリビアの属する中東・北アフリカとガーナが所在するサブサハラ（サハラ砂漠以南）の政治体制の違いを適切に説明している。皮肉にも石油を産出する豊かな北アフリカは、援助への依存度が低いために統治の制度的基盤が比較的堅牢で冷戦終結を機に世界的に強まった「リベラル・デモクラシー」の影響がすぐには波及しなかった。ようやく今になって「ジャスミン革命」を発端として民主化要求のうねりが中東・北アフリカを席卷している。それに比べて、非産油国である比較的貧しく援助に頼らざるを得ないサブサハラの国々は、1990年代初頭からの先進国の援助政策が「民主化しない国には援助を与えない」という方針が、逆に民主化を強力に推し進めたのである。

しかし、同じサブサハラの民主化でも3つのパターンに分かれた。一つ目は、急激な民主制度の導入で政治体制が不安定化し暴力的な紛争に陥ったルアンダのような国。第二に形式的な民主主義の導入によって既存の体制のまま政治的危機を乗り切ったケースでガボンやトーゴのような国々。これが最も多いパターンである。第三に数は少ないが、民主主義を実質的に進化させた国々でガーナやベナンがその典型。つまりは、例外はあるが、総じて経済的に豊かな国が政治的には遅れ、貧しかった国々が政治的には進化したという皮肉な結果となった。

内戦状態によってリビアの経済復興は予測だに出来ないが、平和なガーナは違っている。今年のガーナのGDP成長はIMFによると13.7%と見込まれる。要因の一つはオフショアで油田が発見され既に商業生産が開始されたこと。最近暴騰を続ける金の世界有数の産出国でもある。経済発展を見越したファンドマネーの流入も最近は多い。例えば、新興国ファンド大手のアクティスは、企業買収だけでなく、ガーナに不動産会社を設立して商業ビルの開発に取り組むなど以前は考えられなかった動きである。一般的にも欧米のアフリカ投資は、北アフリカでなく、サブサハラに向かつており、中間層の台頭や規制緩和を見越した通信・メディア、電力・エネルギー、消費財などへの投資が目立っている。

カダフィとジェリー・ローリングス、同じアフリカ大陸のなかで、若くして軍事クーデターを起こし理想郷を目指した二人だが、かくも異なる晩年、「変貌するアフリカ」をそれぞれが象徴している。

会員リレー寄稿 第11回

海外製品発掘と製品化の思い出

株式会社東電通 ICT 東日本事業部
安達 信男

はじめに

私の場合、国際活動は、35歳、1986年にAT&Tからデータ交換機とDov (Data

over Voice) モデムを購入して、企業通信市場にOEM販売するプロジェクトが始まりでした。そこで、この時代に焦点を当てて、何かのご参考に、又は、製品発掘の事例にと思いを述べさせていただきますが、場違いでないことを祈ります。

AT&Tとのプロジェクト

AT&T製データ交換機 (DataKit) は、米国電話会社全体の日々のオペレーションをサポートしていた短パケット交換機で、これ無しでは、運用ができない程重要なものでした。丁度、現在のIPネットによるイントラネットです。85年時代に現在のIPネットと同じ機能で、使い買ってもすこぶるいいものが電話局すべてに行き渡っていたのですから、大変な驚きでした。

INS三鷹モデルで5年ほど音声データ統合ネットの実験をして東京総支社のシステム販売本部に戻った時は、未来型のモデルシステムと現実の企業ネットの大きな落差に直面し落胆しました。丁度、そんな折に、AT&Tから売り込みがあり、私は、すぐ、これだと確信できました。データ交換機とDovモデムを組み合わせた「データオーバーボイスLAN」の概念でOEM販売に取りかかりました。販売計画、購買契約、仕様書制定、本社での技術審議会、技術検証、端末認定、商品登録、技術研修、マーケティングと長い工程を半年かけて一気に走りました。当時、国際調達室の担当に相談するとトラックII Aの手続きで速やかに調達して頂き、大変、お世話になったことを覚えております。

NJ(ニュージャージー)のベドミンスターにある研究所を最初に訪問し、その後ベル電話会社(NYNEX)を訪問して仮想回線交換機(DataKit VCS)によるオペレーションネットワークを見学し、その効用を実感しました。ユーティリティネットワークの概念が出始めた1989年に、オーム社の12月号に紹介した「変貌するデータ通信界に示すAT&T社の解決策」と題する、ベル研究所のシェルドン ホーリング氏(Mr. Sheldon Horing)の講演を紹介しました。ユーザは端末からメインフレームや小型コンピュータを業務毎にアドレスを切り替えて自由に使う概念は、22年後今日でも「クラウド」の構想に似てなにやら新鮮であり、ベル研の奥の深さを感じました。

写真上段の中央が、開発責任者のフレイザーさん。下段がVCS(仮想回線交換機)を発明したドクターホーンさんで、180bitの短いパケットだけを使うリアルタイム性の高いデータネットワークを生み出した方、X.25との相違点やメトロポリタンエリアネットワーク(MAN)の構想をお聞きした。後方の4人の方は、NTTデータのご担当でAT&Tジャパンの秋元さんを囲んで開発の目的や日本での導入予定を議論しているところです。米国ニュージャージーに最大のお客様(NTTデータ)とともに、ベル研究所を訪問した夜のディナーで、昼間には聞けない裏話しや、開発の神髄を研究者に聞くこ



夕食会で議論 (米国ニュージャージー)

とができた。ディナーは通常で3時間も続くので、お客様はお疲れで早くホテルに戻りたがるが、私は、お聞きしたいことが山ほどあって時間が足りなかったことを覚えております。

OEM製品としてNTT製品名ではD o k i t (Data open Kit)として販売を開始し、NTT品川TWINTSの地下1階の検証室で、3段キャビネットのD o k i tを設置して、日本のX. 25ネットとの接続、DT12211手順、DT9651手順、NTT無手順、半二重通信でのデータ交換等を毎日検証しておりました。当時、若いスタッフは英語も得意ではなかったのに、英語マニュアルを捲りながら、概念を理解し、感と度胸(センス)でやり遂げてくれました。これも、INS三鷹経験者を集めることができたからだと思いますが、それにしても奇跡的でした。お陰で、パンフレットも作成し、東京総合支社の製品として全国販売でき、NTTデータ(中野)、堤不動産(八王子)や大分大学へ導入できました。

第二段階では、プロトコル変換にD o k i t機能を使う案件ができ、DT12211手順、DT9651手順、NTT無手順、半二重通信をX. 25プロトコルに変換するノードを開発することとなりました。当時にパソコンソフトを開発していた若い方々を集め、ベル研究所とのジョイントPJを立ち上げました。ダリヨシさん率いるベル研チームが、開発したソフトを日本のパケットネットで検証するために品川Twinsにも数回来ました。

NTTの若い5名は、この前に、NJのベル研で1ヶ月半ほど日本のプロトコルを説明し、共に、ソフトを開発しておりました。90年頃で、英語も得意でなかった彼らが文句も言わずによくやってくれました。なにより嬉しいのは、皆さんが明るく前向きなことでした。若い技術者が育つのは見ることはとても楽しいことでした。

東京支社でのD o k i tの仕事の後、国際調達室で交換機の調達を担当し、ネットワーク総合技術センターで映像メディアを開発し、法人営業のメディア営業に来たころ、「パイオニア」という企業製品発掘の調査PJがあり、5年後に再度、ベル研究所を訪問して最新のデータネットワークをヒアリングし、とても懐かしい再会を果たしました。「パイオニア」活動で見いだした「ポリコム社のドキュメント Show Station」を霞ヶ関ビル30Fの展示場でプレゼンしたりしました。95年頃のポリコムが、ピクチャーテルを買収し、TV会議業界で大成長するとは夢にも思いませんでした。

おわりに

製品発掘の活動は、今日でも充分価値があるのでは、明日の、いや、3年、5年先にブレイクする製品やソフトを先に見だしサポートしていく、「海外のよき製品を日本へ、日本のよき製品を海外へ」こんなインキュベータ的な運動をICT海外ボランティアでもできれば幸いです。

参考：その他の経験等

AT&T製データ交換機(DataKit)のOEM販売、日米調達手続きに基づく海外通信機器調達管理(局用交換機、運用システム、番号案内システム)、米国企業(Sterling Commerce)との電子商取引EDI-VANの提携、外資系企業(Cisco, FedEx, EDS)とのビジネス・モデル検討、子会社NTTPCで海外製品代理店営業やASP型シンクライアントなどに従事しました。海外滞在経験はありませんがビジネス出張の回数は米国、アジアを中心に多くこなしました。

NTTPCを最後に、東電通に1997年に移ってきて以来、一貫して海外製品の代理店ビジネスを進めてきました。1年目はシンクライアントで、米国テキサスのクリアークューブ、2年目は侵入防御システムで、米国ボストンのトップレイヤー、3年目はコンタクトセンタの通話録音で、米国メルビルのベリント、4年目はパケット量の負を分散するバルンサーで、同じトップレイヤー製品です。現在は、通話録音とバルンサーが主要なビジネスです。SIナー（NTTやNEC）へ製品を提案し、受注できれば、設計検討や契約事務等の細かい仕事も沢山あり忙しい日々を送っております。なにならNTT時代以上に働き、まるで、出来高不安を漂わせている「あわれな企業内ベンチャー安達商店」です。5年目は、何かクラウド関係を新規に取り扱いたいと模索中です。何か適切な製品があれば、ご紹介ください。

事務局から

石井誠一氏壮行会開催

事務局

9月12日、渋谷駅前レストラン「まい泉・東急東横店」で、9月26日にSVとしてパナマへ赴任された石井誠一さんの有志による壮行昼食会を本会有志5名が出席し開催されました。

石井さんは、パナマ国家警察局のマイクロ通信をメインとする警察無線の通信網の整備・拡充の技術指導が主な任務です。これに関する光ファイバー網、ICTを含む諸々の指導依頼があるとのこと。

石井さんは、NTT海外事務所長やJICA専門家として、特に中南米で活躍された経験が豊富で、この度のSV活動でも優れた成果が期待されます。石井さんのご活躍を祈念しつつ、終始和やかな会話で盛り上がりました。



(参加者：左より 片岡、加藤、石井(誠)、内山、片岡、石井(孝)の皆さん)

東日本震災支援活動体験（第2回）

東北災害ボランティア活動から感じたこと

本会幹事 山下 満男

1. 支援活動のきっかけ

大震災発生後、様々な人々が現地にボランティアとして出かけている事は知っていましたが、自分が現地に出かけることには高いハードルを感じていました。「現地に出かける足(車)が無い」「持病の喘息で体力に自信が無い」「何よりも個人で現地に行っても受入れ体制が整

っておらず、個人での活動は難しいだろう」と自分に言い聞かせて、ある団体を通じて寄付だけをして、学校卒業記念旅行として以前から計画していた四国八十八か所巡りに出かけました。

6月に四国から帰ってきて、友人のK・Uさんと話をしていた時、彼がある団体を通じて東北にボランティアとして活動してきた事を聞きました。四国で1.300Km歩いた効能か、持病の喘息は治まり、体力的には自信ができました。

個人で東北にボランティアとして活動するにはどのような方法があるのかをインターネットで調べたところ、「神奈川災害ボランティアネットワーク」<http://ksvn.jp>が東日本大震災の被災地へボランティアを送り出す活動を行っている事が分かり、私は早速参加する事としました。ボランティアの派遣先は宮城（夜行日帰り）と岩手（3泊4日）の二通りありましたが、どうせ行くならと思い、岩手に参加する事にしました。

参加する為には次のような手順が必要でした。

- (1) 神奈川災害ボランティアネットワークへの登録
- (2) 希望するボランティアバスの申し込み：山田第5便；7月2日（土）～7月5日（火）
- (3) 参加費の払い込み：4,000円
- (4) ボランティア保険への加入：
- (5) 事前研修会への参加：第3回研修会 6月24日（金）19:00～21:00



陸に残された船



山田町の風景

2. 岩手・山田町での活動

ボランティアバスの定員は30名でした。バスの中で全員が自己紹介をしました。ボランティアの参加者は老若男女さまざまな人がさまざまな動機で参加していましたが、東北をどうにかして支援したいとの思いは同じでした。

元中学校の体育館が山田町災害ボランティアセンター本部となっており、そこが宿泊場所でした。男女別に間仕切りがあり、畳が敷かれ、一畳半が1人分のスペースとして活用出来ました。

神奈川のボランティアだけでなく、北海道在住のイギリス宣教師グループも含め様々な団体や個人がやって来ていました。



ボランティア参加者



宿泊場所

活動初日はイベントの手伝いでした。瓦礫撤去のため、長靴・手袋・マスク・ヘルメット等を準備して勇んでやってきただけに、若干拍子抜けしましたが、これは山田町の人達と直接触れ合う事が出来る貴重な体験となりました。イベントは地元の有志が企画したもので、歌謡ショーやバーベキュー・飲食物の提供、子供遊び場の開設等で数百名の山田町の人々が集まって来て、束の間のイベントを楽しんでもらいました。私たちは会場設営・撤去、バーベキュー提供を手伝いましたが、久々の肉と野菜が美味しいと大変喜んでもらいました。



イベントの手伝い



イギリス宣教師グループ

二日目と三日目は3グループに分かれて、待望の瓦礫撤去を行いました。流れ込んだ土砂を袋に詰め込み瓦礫撤去を行い、若干ハードな作業でした。しかし、山田町を見廻してみると、未だ多くの場所が手つかずの状態であり、自分がやっている作業は実に微々たるものであり、単に自己満足の為の作業ではないかと虚しさを禁じ得ませんでした。瓦礫撤去作業中、地元の人と話す機会がありましたが、地元の人たちが、わざわざ、神奈川から来て瓦礫撤去作業をしている事を喜んでくれた事が慰めとなりました。

また、機会を作って出かけてみようと考えています。



瓦礫撤去作業



瓦礫撤去作業中地元のひと

3. 津波に襲われた夢

現地の風景を見たせいか、宿泊所で泊まった時、自分が津波に襲われる夢を見てしまいました。『列車に乗っていると、列車は突然スピードを上げて走り出しました。駅に急停車すると「料金はいりませんので早く逃げてください」と車掌が叫び、逃げ出しました。何事かとあたりを見回すと、津波が襲って来ていました。急いで山に登り逃げましたが、一休みする間もなく、さらに津波が襲って来て、さらに上に避難しました。』

夢から目が覚めた時、津波被害の状況は散々テレビで見えていましたが、現地で見るとやはりテレビでは伝えきれないのだなと感じました。

4. 様々な東北支援のありかた

東北の災害支援はあまり難しく考えず、「やれる事を、やれる人が、やる事」が大切ではないかと考えています。支援の方法としては次の方法等があります。

1. 災害ボランティアとして現地に出かける。
2. 災害ボランティアを派遣している、災害ボランティアセンターのボランティアを行う。
3. 地場産品復興プロジェクト等をサポーターとして支援する。
4. 東北等に遊びに行く。

東北支援のやり方は人それぞれに異なり、「やれる事を、やれる人が、やる事」が必要ですが、東北の人たちが、自立するために始めた「地場産品復興プロジェクト」は私達ができる最も効果的な支援の一つではなかろうかと考えています。

「地場産品復興プロジェクト」にサポーターとして参加し、数年後に大槌町地場産品（荒巻鮭+三陸の恵み）や三陸牡蠣が送られてくるのを楽しみにしてはいかがでしょうか。

1) 大槌町地場産品復興プロジェクト、【立ち上がれ！ど真ん中・おおつち】

<http://www.otsuchi.jp/>

支援・サポーター募集

1口=10,000円

復興後、「あらまき鮭1本」+「三陸の恵み」をお届け致します。
皆さまのご支援を宜しくお願い致します。

申し込みはこちら

3月11日の東日本大震災で、これまで一生懸命築いてきたものが全て無くなりました。地域の水産加工業は全滅しました。幸い人は残りました。やる気はあります。ノウハウもあります。でも、資金がありません。

応援してくれる人たちがいます。いち早く立ち上がって、狼煙を上げて地域のみんなを引っ張っていきたいと思います。皆さまのご支援を宜しくお願い致します。

2) 三陸牡蠣復興プロジェクト

<http://www.sanriku-oysters.com/>

「復興かき」オーナー募集

一口1万円 = 復興後の三陸牡蠣約20個

牡蠣を愛するあなたのご支援をお願いします

詳細・お申し込みはこちら

世界有数の牡蠣産地「三陸」
再び、
美味しい牡蠣が育つ
豊かな海を目指し
三陸牡蠣復興支援プロジェクト
を立ち上げました！



株式会社アイリンク 代表取締役 齋藤浩昭
日本オイスター協会 グランオイスターマイスター
海鮮直送 旨い！牡蠣屋 店長
(写真左 右は筑仙沼産の生産者黒山政則さん)

JICA「メールマガジン配信登録」のおすすめ

事務局

当会顧問・JICA青年海外協力隊事務局募集課長 佐藤 睦氏からのおすすめです。SVおよびJOCV募集案内等情報満載の「メールマガジン配信登録」をしてください。きっと皆様のお役に立つと思われます。

手順は次の通りです。

- ① Internet Explore で「JICA」を検索
 - ② 「JICA-国際協力機構」を選択しHPを開く
 - ③ 右手の **JICA ボランティア** をクリック
 - ④ **情報満載メールマガジン** をクリック
 - ⑤ **メールマガジン配信登録** をクリック
 - ⑥ 所定の個人情報を記入
- (<http://www.jica.go.jp/volunteer/index.hotmail>)

会報お読みの方々へのお願い

本会の拡充と共に、会報の充実も計ろうといたしております。

それで会報をお読みになった皆様のご感想、ご意見、ご要望は、会報作成のみならず、本会運営に当たっても大きな方向付けに役立ちます。どうぞ遠慮なくお送りいただきますようお願い申し上げます。

送付先は、編集部 加藤隆(kato2415@jasmine.ocn.ne.jp),または
村上勝臣(katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp)までお寄せ下さい。

総編集長 : ICT 海外ボランティア会 事務局長 加藤 隆

編集長 : ICT 海外ボランティア会 報道部長 村上勝臣

発行 : ICT 海外ボランティア会 (メール : sv@info.nttob.org/)